平成26年度入学式が挙行されました(4月8日)

＜校長式辞＞

もの皆萌ゆる春、人の心に新しい希望という花が、今まさに咲んとする、本日、ここに、

ＰＴＡ会長　　森田一弘　様、

潮陵倶楽部会長　新倉吉晴　様

をはじめ、多くの御来賓並びに、保護者の皆様の御臨席を賜り，平成二十六年度　北海道小樽潮陵高等学校の入学式を挙行できますことは、私ども教職員をはじめ、在校生にとりましても、この上ない喜びであり、衷心より御礼申し上げます。

はじめに、保護者の皆様、このように、一段と成長したお子様の姿をごらんになり、お喜びは一入のものがあろうかと推察いたします。心よりお祝い申し上げます。

そして、ただ今入学を許可しました二四〇名の新入生のみなさん！　本当に、入学おめでとう！

本校は、創立一一二年を迎える伝統校です。皆さんは、今、この時から、潮陵生となりました。きっと、言い表せない高揚感につつまれていることでしょう。それは、人が何かを為さんとする時の、人が新たに歩みを進めようとする時の、高ぶる「想い」がなせる技なのです。皆さんの入学を、小樽潮陵高等学校全教職員と在校生一同は、心より歓迎いたします。

さて、皆さんの入学にあたり、二つのことを期待します。

一つ目は、困難に挑戦する気概を持ち、それを乗り越えようと努力し続けてほしいということです。

人生では、何もかもが輝くように見える日もあれば、自信を失い、前を向く勇気すら無くてしまうこともあります。アメリカの黒人公民権運動の指導者　マーチン・ルーサー・キング牧師は、「私たちには、今日も明日も困難が待ち受けています。しかし、それでも私には夢がある。そして、人の真価は喜びに包まれている時ではなく、試練に立ち向かう時にわかるのだ」と述べています。

人が困難を乗り越えた時、あるいは乗り越えようとした時に、自らの内に「意欲」や「感動」や「自信」というものが生まれます。それこそが、人生を真に意味のあるものするです。だからこそ、皆さんには、結果でなく、努力を続けた先にある喜びや感動を、見いだせる人になって頂きたいと思うのです。

二つ目に期待することは、他者と協力し、共に何かを創造する人になってほしいということです。

皆さんの本分は学業です。それ抜きに「潮陵」を語ることは出来ません。しかし、多くの先輩がそうであったように、皆さんには、ぜひ部活動に、行事に一心不乱に取組み、友と一つの目標向かって夢中になり、全力を尽くす歓びを味わっていただきたい。

皆さんの生きていく世界は、グローバル化が進んだ広大な大地です。皆さんは、そこで、異なる文化、

異なる価値観を持った人と出会い、共に人類の未来を切り拓いていかなければなりません。本校で、仲間と歓びを共にした経験こそが、将来、利己的な生き方でなく、他者と共に荒れ野に鍬を振るい、他者のために尽くせる利他的な生き方のできる人になれると信じるからです。

本校には、『潮陵』という品種の桜があります。校名がついた桜を持つ学校は全国でも希有の存在ではないかと思います。

そして、皆さんもまた、潮陵という名を持つ若木です。未だ、幹は細く、枝は折れやすい。しかし、凍てつく大地に深く根を下ろし、いつか大空一杯に枝葉を広げる大樹となってもらいたい。そして、満開の花を咲かせ、その梢に、鳥や様々な生き物を誘い、その木陰で多くの人々を癒す存在となって欲しいと思うのです。

新入生の皆さん！

志を高く掲げなさい！目指す峰の高さ、その険しさを決めるのは皆さん自身です！　高い峰を目指すことは、多くの労苦を伴うものです。けれど、高きものを望む心こそ、人として最も気高い在り方なのです。

新入生の皆さん！

夢を持ち、夢に向かって努力しなさい！ その若い魂と意志の力を持って
光ある彼方を目指して進みなさい！私たち教職員は、困難な道程に歩み出さんとする君を、誇りに思うことでしょう！

結びに、本日ご臨席の皆様へ、心よりの感謝を申し上げますとともに、新入生の皆さんが、人として価値ある高校生活を過ごしてくれることを祈念し、入学式の式辞といたします。

平成二十六年四月八日
北海道小樽潮陵高等学校　　校長　湯　田　恭　丈

第26年度 入学式

めでとう!